

# COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

川崎の歴史には、いつも多摩川が流れている。

「あばれ川」とも呼ばれ蛇行を繰り返してきた多摩川。氾濫原となった土地が等々力緑地となり、現在では市民のレクリエーションの場として活用されています。川崎の歴史はつねに多摩川とともにある。等々力緑地はその1つの象徴でもあるのです。私たちの毎日も、きつとこの土地と歴史に刻まれていく。

100年目の川崎市ではじまるColors,Future! Actions。

このまちを発展させてきた人たちに感謝を抱きながら、未来の人たちへとつないでいく多彩なアクションを、さあいっしょに。

Photo / 中原区 多摩川 丸子橋付近 小串嘉男さん撮影 川崎市立中原図書館所蔵 昭和30(1955)年



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

川崎市市制100周年記念

7区の歴史を振り返る



特設サイト

<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000147126.html>

2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

その歴史を知るため、川崎市7区をぶらりと歩いてみました。

それぞれの区の昔の写真を手に、歩いて、見て、聞いて、感じて、発見したこと。

それは今に至る100年の発展の理由でした。

あなたの住んでいるまちの昔を知っていますか？

過去にはこれからの100年先の未来を考えるヒントが、きっとあるはずです。





歩いて発見！  
知ってナルホド！

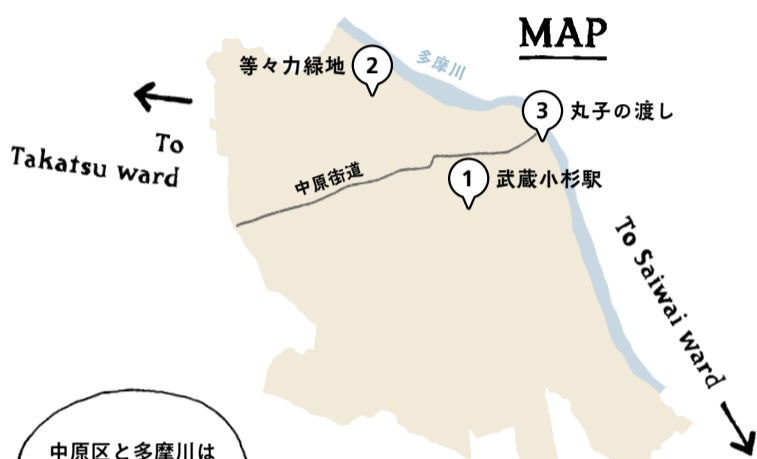
ぶら

# 中原区



## 多摩川がもたらした 恵みとは何か？

川崎フロンターレの本拠地がある等々力緑地は、かつて多摩川河川敷で砂利採掘のためにできた池がたくさんありました。多摩川沿いに発展してきた中原区の昔を探してぶら歩き。



中原区と多摩川は切っても切れない仲です

中原区役所  
まちづくり推進部  
地域振興課  
池田賢一さん



案内人はこちらのお二人

中原区役所  
道路公園センター  
管理課  
多田暁弘さん



南武線  
武蔵小杉駅

提供：羽田猛氏



1956  
カラー化写真



2022

左の写真が撮影された1950年代に、東急の武蔵小杉駅は移転して現在の位置に。写真は国鉄（当時）の駅ホームで、2000年代になって広大な土地の再開発に際して、タワーマンションが建設されるように。

提供：川崎市立中原図書館（小串嘉男氏撮影）

等々力  
緑地



2022

多摩川は氾濫を繰り返し、川筋は蛇行し、流路の変更を重ねてきた。等々力、宇奈根、野毛、丸子のように東京都側と神奈川県側とで同じ地名があるのは、流路変更の影響で村が分断されたから。右の写真は丸子橋付近だが、等々力緑地の一部も多摩川の河川敷だった。

多摩川  
丸子橋付近



1955  
カラー化写真

工場跡地など敷地面積の大きな土地を利用してタワーマンションが続々建ち出したのは2000年代以降で、



高度経済成長期に、多くの労働者を癒してくれたセンターロード小杉も健在。最先端の高層建築を背景に庶民的な飲食店がある様子は、まるで映画『ブレードランナー』ではないか。ハリソン・フォードを気取って1杯やるのもオツかもしれない。

JRと東急の2社5路線が乗り入れる武蔵小杉駅。その開業の経緯は複雑で、まず1927（昭和2）年に南武鉄道のグラウンド前停留場、武蔵小杉停留場が作られた。1939（昭和14）年、南武鉄道沿いに進出してきた近代工場のため、東急が東横線と府中街道が交差する所に工業都市駅を開業。それら駅の統廃合や移転といった紆余曲折を経て、現在の形となった。駅周辺は、1940年代後半から発展が始まったという。1947（昭和22）年に保健所、公民館などの公共施設ができて、中原区の行政の中心地になった。1965（昭和40）年頃からは宅地化が進んで、大企業の社宅群が林立し始めたのである。

ぶら中原区① 武蔵小杉駅  
タワマン林立の武蔵小杉駅周辺はいつから憧れの街になった？

景観が一変した。一方で駅南口には、昭和の香りのする居酒屋などが軒を連ねるセンターロード小杉が健在である。

ぶら中原区② 等々力緑地

等々力緑地には砂利採掘で大きな池が7つもあった

等々力の地名は、東京都世田谷区の等々力渓谷内にある滝の轟音が「とどろく」ことに由来するといわれる。等々力緑地は36・6ヘクタールもの広さを誇る公園で、豊かな緑に覆われている。敷地内には川崎フロンターレの本拠地の等々力陸上競技場、総合体育館のとどろきアリーナ、等々力球場などを擁するほか、釣り池もあってのんびりと釣りを楽しむ人の姿も見られる。まさに市民の憩いの場だ。中原区役所の多田暁弘さんが説明する。

「このあたりは昔の多摩川旧河川敷で、昭和初期の砂利採掘によりたくさんの水が溜まり、大きな池が7つもできました。そこで1949（昭和24）年、池に魚を放流して釣り堀が開業しました」



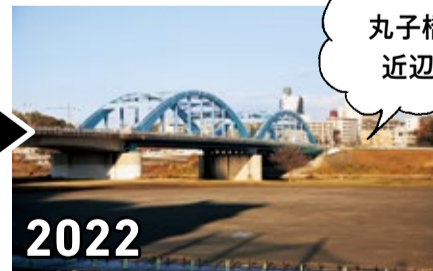
当初は「東横池」と呼ばれていた釣り堀だが、その巨大さゆえ後に「東横水郷」と改称された。今後、緑地内の施設の再編整備が行われる。

ぶら中原区③ 丸子の渡し

中原街道は江戸に行くための主要な街道だった

多摩川をはさんで東京と川崎を結ぶ丸子橋のたもとに向かう。現在架かっている橋は、2000（平成12）年に架け替えられた2代目である。1935（昭和10）年に初代の丸子橋が開通するまでは、中原街道

丸子橋  
近辺



2022

多摩川の河川敷で楽しむのは、昔も今も変わらない。橋の完成に伴い丸子の渡しは廃止されたが、現在は地元の人たちの手により「丸子の渡し祭り」が催され、渡し舟の乗船体験ができる。

提供：羽田猛氏



1925  
カラー化写真

白黒写真カラー化プロジェクトとは

かわさきマイスターの印刷技師・流石栄さんにより、昔の川崎の白黒写真20作品をカラーで再現しました。プロジェクトはガバメントクラウドファンディングによって実現されました。



丸子橋を渡ると東京都大田区。夕暮れ時に、東京側から中原区を見ている。太陽は多摩川の水面に美しく反射しつつ、そびえ立つ武蔵小杉のタワーマンション群に沈んでいく。

徳川家康が鷹狩りに往来？

平塚の中原で東海道と結ばれる中原街道。徳川家康は平塚に中原御殿（別荘）を持ち、鷹狩りに出かける際にこの街道を通った。また小杉にも御殿を持ち、道中の休息に利用した。

世田谷区と中原区に「玉川小学校」？

川崎市立玉川小・中学校の読み方は「ぎょくせん」。創立に際して校名を決める時に、対岸の世田谷区には「玉川小学校」が。だが玉川の文字を用いたく、読みを変えて命名。

中原区トリビア

